

どろいあんぐる菅生

http://isweb43.infoseek.co.jp/school/sugao_ky/ E-mail: csu@ha.bekkoame.ne.jp

子どもの安全

学校・PTAの

取り組みは・・・

今、子どもたちの安全がおびやかされ、地域でのびのびと遊んだり、学校で生活することができにくくなっています。子どもたちが安心して生活し成長できる地域や学校、家庭をつくるのが急がれています。

情報委員会では、子どもの安全について地域の皆様と一緒に考えるために3校での取り組みや宮前警察からの情報を拾ってみました。

菅生中学校

- 生徒の登校後は、不審者等への防犯対策として、正門・西門・南門の3カ所を閉めている。
- 来訪者へは、門扉の開閉と来訪者名簿への記載をお願いの看板を設置。(保護者・来訪者の名札は検討中)
- 発生場所や緊急性等を考慮し、事態に応じて、保護者への通知を行う。生徒へは、クラスや緊急集会等での指導。PTA・自治会等への連絡、警察や外部機関への連絡というような方法で対応。
- 4月に実施される通学路調査に基づき、危険箇所を把握し、交通安全指導に役立てていく。また、時節に応じて最終下校時刻を設け、その時間までに校門を出て帰宅するよう指導。



校内を巡回するPTA (稗原小)

菅生小学校PTA

『パトロール中』のプレートを作り、自転車・乳母車・カバン・自動車などにつけるようにしている。このプレートを持っていただける方を、PTA や地域の方々から募集。子どもたちがそのプレートを見て、安心して通学でき、何かあったときはすぐに声をかけられるようにしている。

事件がおきないようにするための対策として、次の意見があがっている。

- 犬の散歩時に腕章をつけてもらう。
- 郵便局の人にも『パトロール中』のプレートを付けるのを協力してもらう。
- 何かあったらすぐに親に伝えるよう、子どもたちに教える。
- 子どもに防犯ベルを持たせる。
- 自己防衛力をつける。
- 不審者情報は学校から早めに伝達してもらい、対応する。

カバン用プレート
10cm × 14.5cm
(実物はカラフル)



稗原小学校 & PTA

- 登下校の時間以外は校門を施錠。不審者が校内に侵入した場合のマニュアルを作成。
- 各家庭にIDカードを配布し、保護者が学校へ行くときは必ず身につけるようにし、買い物などのときにもカードの裏面の「パトロール中」を表示するよう呼びかけている。
- 池田小事件依頼、PTA による校内パトロールを実施。死角となっていた一階トイレに柵を付けた。校外パトロールでは、子ども達に声をかけたり、防犯ポスターを作成し公園などに掲示。
- 宮前警察の協力により、護身術を保護者対象に実施。職員のための講演会も企画中。
- 警察署にパトロール強化の要望書を提出。子ども自身の防犯意識を高めるために、保護者と4年生を対象にCAP(子どもへの暴力防止)の講習会を実施。
- 子ども110番には現在89件の登録があるが、内容について子どもたちへ知らせていくことがこれからの課題である。
- 学校教育推進会議を開催し、子どもたちと地域の大人たちが一緒に、学校内・外の安全をテーマに話し合った。

子どもの安全を考えていく上で、家庭・学校・地域として注意しなければいけないことを、宮前警察署・生活安全課・防犯少年係の小谷田さんにお話を伺いました。今回は、私たちが日ごろから気をつけておきたいことや“なるほど”と思ったことをまとめてみました。ぜひ、これからの防犯対策の参考にしてみてはいかがでしょうか。

○複数で行動しよう。

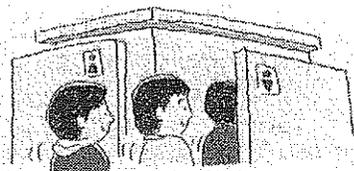
(たとえばトイレなど)

○友だちが危険な目に

あつたら、すぐにその場から離れて、助けを呼ぼう。

(建物の木・遊具など死角になるところには危険があるかも！)

ものちゅうい
物かげに注意！



ちゅうい
カギに注意！

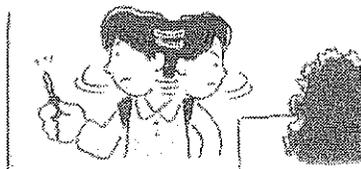
しゅうい あんぜん かくじん
○周囲の安全を確認して

から、カギを開けよう。

○荷物が届いたときには、送り主などの確認

をしてからドアを開けよう。

○カギには所有者(名前など)がわかるものをつけない。



お

大声を出す

す

すぐ逃げる

し

知らせる

○知らない人に話しか

けられたら、すぐに逃げられるだけの距離をとろう。

(とくに車から話

しかけられたら、両手を広げた以上

の距離まで車から離れよう)

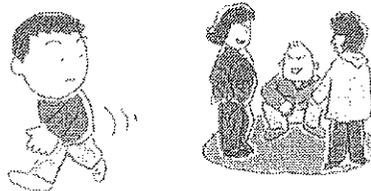


ふしんしゃ ちゅうい
不審者に注意！

○怖い人たちに囲まれても、あきらめずに

周りをよく見て、突破しよう。

(強そうな人たちの中にも、必ず、弱い人はいる。落ちてよく見よう)



きけん め
もし危険な目にあつても！

子どもたちにはこんな指導を...

- ①家の周りに危険な場所はないか、子どもと一緒に考えてみる。(子どもの目線で考えよう)
- ②「こうしてはいけない」「こうしなさい」と一方的に教えるのではなく、「あなたならどうする」と問いかけながら、どうしたらよいか子ども自身でも考えさせること。
- ③寸劇やゲームなどの疑似体験によって、具体的な対処方法を学ぼう。
- ④日常生活の中で、くり返し指導していくことが大切。

蔵敷交番のおまわりさんは...

菅生中学校区の周辺は広々としており、のどかな環境で、周辺の市街地に比べると安全な地域と思われます。ここ最近では、特別な事件も起こっておりません。しかし、登下校の際などはひとりで帰宅したりすることを避け、暗くなる前に帰宅するようにしましょう。不審な人を見かけたときは、すぐに知らせてください。また、学校において、児童・生徒・保護者のかたを対象にした安全対策のことなど、いつでも話しに伺いますので、気軽に声をかけてください。(談)

FAX ネット

宮前防犯協会には、区内で何かがあったとき、203ヶ所(町内会長、自治会長、防犯協会会員、防犯指導員、小・中・高校、金融機関など)に対し、FAX で迅速に知らせるシステムが、昨年9月から開設されている。

☆家庭・学校・地域が連携し防犯対策をすることが、子どもを犯罪から守ることにつながります。お互いに協力して、子どもにとって安全・安心な地域にしましょう!

携帯電話と子どもたち

— 持つと便利・持たすと問題 —

2月7日(土) 富前市民館菅生分館にて、生涯学習委員会と子ども会議の共催で、生涯学習委員長の工藤さんをコーディネーターとし、現高校1年生(女子)6名をパネラーに招き、『携帯電話』について大人と子どもの本音の語り合いをした。また、事前に菅生中学校の2学年・2クラスの生徒とその保護者を対象に、携帯電話に関するアンケートを実施し、その結果と平成12年度政府機関発表の「青少年と携帯電話に関する調査研究報告書要旨」を参考資料とした。

意見交換から

小学校では携帯電話を持つてくることを禁止はしていない。中学校では、学校生活には不要なものとの認識があるが、保護者からの要望に対し個々に対応しているとのこと。パネラーのうち4人の学校では持ち込みをOKしているが、それぞれ決め事がある。禁止されている場合でも、マナーモードにして持ってきている人もいる。

中学校で禁止していることについて、パネラーたちは、「中学では必要ない」という意見がほとんどであるが、「なくしたら困る」という理由で禁止にするのはおかしいと思っている。高校生になってからは、中学時代の友だちとの連絡には特に役に立っているようだ。

携帯電話の必要性和メールの利用については、友だちとのコミュニケーションのために、連絡方法としてなくてはならないものと思っている。料金のことも考えていて、メールのほうが安く、その時々状況で文章を考えて送れるという理由でメールを使うことが多いようだ。ただ緊急時や、すぐに知らせたいとは電話で話すという。「不審メール」「ワン

友だちとの連絡・コミュニケーションが中心

切り」「アダルト情報」などについては、友だちから情報を得たりと、大人よりも情報量は豊富。

大人たちからも、携帯電話のマナーの悪さなどが高校生だけの問題ではなく、社会の問題として捉えるべきだという意見もあり、携帯電話の「道具としてのメリット」「デメリット」「マナー」について考えていくことが必要という共通認識に至った。

パネラーたちは一人にいるときにメールをすることが多く、「依存症」という問題はなさそうだが、「携帯電話が命」の子どもを持つ親に対しては、食事のときぐらいはやめるように話してみてもどうかというアドバイスもあった。また「携帯電話」を持ったことで、成人した子どもとのコミュニケーションがとりやすくなったという意見もあった。パネラーたちは、親とのコミュニケーションは、直接会話でとっていることが多いようだ。

メールのよさをどう捉えているかということについては、「口では言いにくいことを伝えられる」「メールのやり取りで友情が深まった」「相手や自分がどこにいても会話ができる」という意見だった。

アンケート結果から

菅生中のアンケート結果では、6割が携帯電話を持っており、女子の所持率が高い。持っていない理由は男子の場合は明らかではないが、女子は「親がだめ」「勉強がおろそかになる」などである。いつから持っているかとの間では、「小学生から」が多く、次いで「中学1年から」。利用料金は月平均5千円~1万円で、支払いは親。持っていてよかったことは「友だち関連」のことが圧倒的に多く、困ったこととしては「アダルト情報」「チェーンメール」などで、「小遣いがなくなった」というのもあった。使い方は、メールが中心で、1日に30~100通くらいが多い。

保護者の結果では、持たせてよかったと考える人が多く、「子どもとの連絡に便利」「コミュニケーションが深まる」「安全面で役立つ」等の意見が多い。

政府機関発表の報告書では、調査年度は異なるが、所持率は菅生中のアンケート結果とほぼ一致していた。

参加者の感想から

携帯(メール)が、距離(実際の距離と心の距離)を埋める道具であることが実感できました。今の子どもの「直」のことばを聴く機会をもてるのは有意義であると思いました。(大人)

携帯を持つことが当たり前になってきているので、使うものとして、マナーをしっかりと作っていくべきだと思います。また、大人は新しいものを受け入れたがらない傾向があり、頭ごなしに批判するけれど、10代には10代の気持ちや意見があるのでそれを理解してほしいなと思います。(高校生)

大人も子どももマナーを守らなきゃいけないと思いました。人を思いやる気持ちがあるのなら、迷惑にならないようにしなければいけないと思いました。大人の方たちがどんなことを思っているのかが分かって良かったです。(高校生)

携帯電話やインターネットは、私たちが若いころにはなかったもの。新しい道具ですので、大人も使い方を勉強する必要があると同時に、若い人たちが携帯電話にどんな気持ちを寄せているのかについても理解していきたいです。道具に使われないように、新しい便利な道具を賢く使いこなしていくように、大人も子ども、お互いの考えを出し合っていけたらいいなと思いました。(大人)

※アンケート結果においても、意見交換の場でもとても興味深いものがありました。この成果を無駄にしないために、生涯学習委員会では報告書を作成中です。詳しくは事務局までご連絡ください。